

吉野椀ひく山賤もまばらくはさらで詠むる花の木のもと

〔今様職人盡歌合上〕

よし野椀はげしく花にふく風を霞のあみに貰ていればや

〔日本鹿子七〕同國江近中名物出所之部

椀日野五  
器ト云

〔自笑樂日記三〕鉢かづきのお三に妻戀笛

知る通り、手前僅なる資本にて、此色商賣に取つき、日野椀十人前も、中笠二つ欠たるを漸々調へ、

吸物出すにも其汁椀を用ひ略下

〔日本鹿子八〕下野國中ヨリ出ル名物之類

日光椀

〔日本山海名物圖會三〕日光膳椀 下野國日光山江戶より三十一里あり、此所より出る椀、膳堅地

にてつよし、雜用に便りありとて、諸人賞翫する也。

〔奥羽觀蹟聞老志三 庸貢土産〕飯器

會津所出多品、又江刺郡所出謂之正法寺椀、朱内漆黒外、或畫

異

〔工藝志料七〕漆工

或云ク、正平年間僧無底トイフ者アリ、陸奥國江刺郡黒石村ニオイテ一寺ヲ創建ス、號シテ正

法寺ト云フ、又黒石精舎トイフ、正法寺ハ禪宗ニシテ、越前國永平寺能登國總持寺ト共ニ一派

ノ總本寺タリ、故ニ諸國ノ僧徒來聚スルモノ夥多ナルヲ以テ、正法寺ニ於テ使用スル所ノ食

器ノ椀モ、亦其ノ數多クシテ、賁ルベカラズ、故ニコレヲ造ルコト甚多カリシナルベシ、其ノ造